

第2回 第6分科会会議録（概要）		場 所	新宿清掃事務所 会議室
日 時	平成17年7月9日 午後1時10分～午後3時20分	記録者	【学生補助員】 江藤慎介、鈴木昂
		責任者	区事務局（荒井）
会議出席者： 52名 傍聴者 1名 （区民委員： 43名 学識委員：3名 区職員： 6名）			
■配付資料 ①次第、②第1回会議録、感想カード、言いたい聞きたい提案カード、③検討の全体像 ④運営方法の事務局案、⑤名前カード、⑥k J法について、⑦歩きたくなるまち 新宿			
■進行内容 1 自己紹介 2 会議運営について 3 自由な議論			
■会議内容 【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員			
1. 開会 ○：只今から、第6分科会の第2回会議を開催いたします。はじめに三田委員から ごあいさつと本日の会議の到達目標について発表いたします。なお、記録用の テープと写真の撮影の許可をお願いします。 ◎：（三田）お集まりいただきありがとうございます。日本47都道府県で市民のボ ランティア活動の活発な都道府県は犯罪が少ない、完全失業率が少ない、特殊 出生率が高いという客観的なデータがあります。内閣府のデータで、こういっ たソーシャルキャピタルが安全で安心で安定した社会になっているのではない か、関連性があるのではないか、つまり市民の活発な活動が豊かな人間関係を つくるのではとされています。 本日お集まりくださった皆様は、将来的に重要なソーシャルキャピタル（人 的資源）となっていくのではないのでしょうか。これから1年弱の間、豊かな人 間関係、新宿区のまちづくりを豊かなものにしていく活躍に期待いたします。 ○：では、事務局から報告事項及び配付資料の確認をさせていただきます。 ・当分科会の委員数は、ご本人の都合などにより、1名が他の分科会へ移られ、 また1名が委員をご辞退され、現在74名です。 ・「自己紹介カード」は、ご提出いただいた分のみで構成しておりますので全 員分とはなっておりません。個人情報にあたりますので注意してください。 ・「第1回会議録」は、ホームページ等に速やかに掲載していくため概要とし			

て作成すること、発言者名は公表しないこと、内容確認は事務局及び学識委員にお任せ頂くことでお願いいたします。

・「検討の全体像」は、「1」で、区民会議の提言が基本構想や基本計画の案の策定まで、どのように流れていくかを、「2」では、提言提出までの大まかなスケジュールを示しています。なお、検討の進み具合などにより変更もありうると考えています。「3」では提言の作成イメージとプロセスを示しています。

なお、参考までに、区民会議の大きな目的は、基本構想や基本計画に盛り込むべき内容を意見としてまとめ提言することです。(図例参照)皆様の議論は、日ごろ目にすることが多い、実施計画などの話から入っていくことも多いかと思いますが、提言は括弧と下線部分で示したような「区の将来像と方向性」についての意見をまとめていくこととなります。

(2)では、提言までのプロセスとして、第1から第4段階が主に分科会での担当になります。皆様に学習していただく事柄も非常に多くなると思いますが、資料についても出来るだけ早くお渡しできますよう事務局で準備しておりますので、ご協力のほどお願いいたします。

「名前カード」は、皆様が会議参加の際に常時携帯し、また本庁舎地下の「交流の場」など使用いただく際に、区役所の警備員に提示いただくようになりますので紛失などしないようお願いいたします。

2. 自己紹介

- : 次に、7つの班ごとに、一人あたり90秒で自己紹介してください。各班で時間を計測をお願いします。大体90秒とはどの位かを知るためでもあります。

終わりましたら区民委員の中で仮リーダーを決めて頂きます。今後の自主的運営にあたり、リーダーや書記は持ち回りで決めていくこととなります。仮リーダーは、本日の各班のファシリテーターなどが、どんな役割をしているかなども参考になるよう注意して見てください。

(自己紹介 省略)

3. 会議運営について

- : 会議の運営方法についてですが、行政が今まで主催してきた会議体では、予め運営方法などを提示し、それに応じてお申し込み頂く、または会議に参加して頂くなどの形が殆どでしたが、この会議は参加者である皆さんの主体的・自主的運営が原則となります。

例えば、会議開催日は、「平日夜や土日で参加しやすい日を皆で決める」とし、本日の開催も皆様の合意形成を図ると同時に、会議運営に関する会議内容とするため、事務局からフォロー会議の提案をさせて頂いたところです。

また、前回会議では、月2回の会議は第1・第3土曜日の午後を中心に開催する形で進めるということまでは、一応まとまったかと思えます。

前回の会議を終え、参加された委員の中からは、会議運営方法を皆で決めていくということは重要だが、時間のなかで、主目的である分野検討に入らずに、運営に関することばかり1つ1つ決めていくのは時間があまりにもつたいない、また決め方にも疑問がある、などのご意見も戴きました。

事務局と学識委員と話し合った結果、確かに先がよく見えない段階で、今後いろいろな状況により変わり得ることなども全て、皆さんに諮っていくというのめどうかと考え、当面、暫定的ではありますが事務局が運営（案）を示し、皆さんの中で不都合が生じた場合や何人かの世話人的な方が出てきた段階で必要なものは直していくという方が、より合理的ではないかと考えた次第です。

ただし、現時点で皆様に確認や諮らなければならないことがあります。

第1土曜日に「班検討」、第3土曜日に「発表」という基本スケジュールを組むこと。第3土曜日の「発表」に関しては、分科会全員の参加を原則とします。参加できない場合でも、発表内容などは「会議録」として残していきますので、各班の検討結果を知ることは可能と考えます。

しかし、「検討に参加すること」に関しては、グループでの検討、話し合いによる合意形成を目指す区民会議において、第1土曜日に参加できない委員は、「毎回、意見カードを出せばいい」と言うわけにもいかないかと思えます。

事務局では、グループ討議として最低数の6名以上の参加が見込めるならば、第1土曜日に参加できない委員のための会議日として直後の水曜日夜を設定してはどうかと考えました。いかがでしょうか？

- : 仮にまた2ヵ月後とかにみんなグループ分けを再度して、リーダーが変わったりするのは、どこかのグループを待つことになり、またもう一度議論が戻ることになるので、時間のむだになるのではないかと？最初にテーマによってグループ分けをして、そのまま同じグループで議論を続けていくべきではないか？
- : 前回ご確認いただきましたが、全員が同じ分野を検討していくことが原則になります。進めていく中では、スケジュール通りにまとまらないこともあるかもしれません。そのような場合、例えば「交流の場に木曜日に集まりましょう」とかも考えられると思えます。
- : それでは第一、第三土曜日に会議を開催する。また、フォロー会議を設定する。人数が集まらない場合はフォロー会議は開催しない、ということよろしいでしょうか。（拍手）。では、以上の事務局案及びフォロー会議についてもご確認いただいたということで、当面はこのルールに基づき、会議を運営させて頂きたいと思えます。

4. 自由な議論

- : では、みなさんからの希望も多かった自由な議論に移りたいと思います。まず、伊藤委員から分野全体にかかることについて、少し講義を頂きたいと思います。
- ◎ : (伊藤) 区民会議が住民のコントロールとなるかは、市民の合意が必要です。自治参画の合意が必要です。協働、パートナーシップというのは行政に取り込まれるのではない、同じ考えで手をつなぐというではありません。同じ考えでなくてもよく、けんかや対立は当たり前です。でも一人一人変わっていくはずで、「協働」というのは、そういうことがベースにあるのです。
- 一つはコミュニティレベル。自転車、たばこ、マンションの問題をみんなで一緒に協働する。それが区役所レベル、新宿区レベルで進む。自治の制度まで市民の声を、仕組みまで考える。外国人の方の問題も協働と絡んできます。
- KJ法に関しては、どういう動機で作ったかといいますと、どんどんこんなことをしたい、こんなふうになってほしいという意見を出してほしいと思い、一枚のペーパーをつくりました。
- : さっそく作業に入ってもらいます。ポストイット一枚に、日ごろ思っていることなどを1つずつ書いて、各分野の所に貼って頂きます。班内で説明しながらさらに膨らんでも結構です。
- (作業開始)
- : 出てきた意見を意見の種類別に分けてみてください。どういうグループの意見なのか。例えば、課題と解決策などを違う色のポストイットで分けてください。
- (作業再開)
- : 時間も迫ってきましたので、1班2分で今日の議論の発表をお願いします。
- : (1班) 一通り、コミュニティから自治制度までについて、現状から改善策までを話しました。掘り下げた議論は出来ませんでした。お互いの考えかたが分かりました。
- : (2班) 多文化共生では外国人との共生社会にどう対応したらいいかに行き着くのではないかと。地域安全では防犯体制、外国人が多いことの対応。コミュニティでは、時代に即応した市民組織の再編・組織化の必要性。協働参画では区民の意識改革、行政の意識改革が必要であること。自治制度では、自治基本条例をつくったらという話になりました。
- : (3班) この会議には、参加していろいろ知りたいと考えてこられた方と、意見を出すために来た方がいます。KJ法ということで皆、まず「え？」となりましたが、意見を紙に書いて出し合い、まとめていくということを経験したことに意義があったと思います。外国人問題ではどう対応すればいいのか。自治制度では、自転車やゴミの問題で、行政に対して物を申したいが、どうしたらよいかを自治制度にもっていくということで個々の意見がまとまりました。

- : (4班) 自治制度は区全体の自治制度と地域の制度のしくみの見直し、学校制度の確立、区民・現場の意見のくみ上げについて話しました。地域安全では子どもが元気に育つ環境作り、防災に強いまちづくり、犯罪が多いイメージ払拭すること。まちの美化、安全のためのコミュニティの持続させるシステム。多文化共生は、課題としての認識とそれに必要な知識と啓発。また区だけでは無理なものもあるので東京都の関係。コミュニティは、再生、世代間の連携、旧・新住民、隣組の必要性、イベント、ボランティアに取り組むこと。協働参画は進めるためのガイドラインの必要性、ハード・ソフト面の整備などがありました。
- : (5班) コミュニティに関しては、友愛活動を通して、お互いに話し合い、交流をつないでいく。町会の現状はあまり良くないものもあるので、町会の機能をもう一度考え直す必要があります。協働・参画では、楽しく参加できる場づくりを行わないとやめていってしまうので、考えていかなければいけません。自治制度ではきちんとできるようにしていくこと。そのために議員さんの議員活動の確認、チェックする機関をボランティアでも良いからつくるべきです。地域の安全では見た目だけでは、怪しい人間かどうかは分かりません。交番に行っても警官がいないこともあり、地域の安全は考え直していかなければいけない。多文化共生は、異文化の理解です。ごみのルールなども分からない場合がある。外国人に知らせるしくみが必要です。最後に区には収入と支出をきちんと考えて仕事をしていてもらいたいということがありました。
- : (6班) コミュニティの問題を出発点としてとらえ、協働参画のしくみづくりと、誰がどのように地域の問題を考え、そして多文化共生や地域安全の具体案をあげ、結果として最終的に自治制度につなげていくという考え方の流れについて議論、検討しました。
- : (7班) 年齢もバラバラで、生きてきた考え方をもとにした、まちを愛すればこそその意見がでました。コミュニティでは、60歳以上に入浴券配付の見直しと年齢、性別、国籍、身体状態の違いを越えて尊重しあうこと。多文化では、風呂の問題、習慣など違うこと。地域安全では一番多く意見が出ました。住んでいるまち自分たちで守る。昼間は留守であり、パトロールなどが必要です。ハトにえさをやるのが迷惑なのに平気な顔をしている人もいます。電柱を10年後にはなくし、地下ケーブルにしたい。自治制度では、たばこのポイ捨て問題も、千代田区のように新宿区ももっと厳しくするべきではないでしょうか。最後にまちの人がパトロールするとき金を出してもらえるといいのではないのでしょうか。他にかけるお金があったら区民にお金を出してあげて欲しいです。
- : ありがとうございます。最後に三田委員、総括をお願いします。
- ◎ : (三田) 先ほどの7班をきいて、希望が湧いてきました。一つに問題点と課題、財源、二つに論理的なアプローチ、三つに役割分担の視点ですね。自らの財産

になるよう皆さんこれからじっくり考えて頂きたい。ありがとうございました。

○ : では、次回は8月6日(土)午後1時から、この会場ということで、よろしく
 お願いいたします。よろしければ感想カードを最後に書いてください。

<決定事項>

- ・今後、分科会は事務局案を中心に運営する。

<次回日程>

- ・7月16日(土) 13時～15時 区役所本庁舎3階 301会議室(フォロー会議)
- ・8月6日(土) 13～15時 新宿清掃事務所 会議室

第2回 第6分科会フォロー会議録 (概要)		場 所 新宿区役所本庁舎 301会議室
日 時 平成17年7月16日 午後1時00分～午後3時00分	記録者 【学生補助員】 伊藤幸一、長屋修司	責任者 区事務局(荒井)
会議出席者：19名 傍聴者0名 (区民委員： 15名 学識委員： 1名 区職員： 3名)		
■配布資料 ①次第、②第1回会議録、感想カード、提案カード、③検討の全体像、④運営方法の事務局案、⑤名前カード、⑥KJ法について、⑦歩きたくなるまち新宿		
■進行内容 1 自己紹介 2 会議運営について 3 自由な議論		
■会議内容 【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員 1. 開会 ○ : 定刻になりましたので、開催いたします。前回のフォロー会議と同様の内容ですが、初めに伊藤委員からご挨拶と本日の会議の到達目標について発表いたします。 ◎ : (伊藤)新宿区には様々な問題がありますが、自分が思っていることをぶつけてそれをポストイットに書いてください。そして、自分の考えを相手に伝えて、仲間を増やして欲しいと思います。私たちは議論を引っ張る役目なので、皆さ		

んの熱意でこの会議を盛り上げてください。

- : それでは資料の確認を行っていきたいと思います。

(7月9日の第2回会議と同様なので省略)

2、自己紹介

- : まずは各、班ごとに自己紹介をして下さい。1人90秒を目安にお願いします。

- : 全体ではやらないのでしょうか？

- : みなさんはどう思いますか？

- : どういった方が参加しているかが非気になるので、誰が出てくるか知りたいです。

- : まあ、簡単にすれば、人数も少ないいいのではないのでしょうか？

- : では、簡単に自己紹介をお願いします。

(自己紹介 省略)

- : ありがとうございます。それでは各班で仮のリーダーを決めて下さい。役目としては、当分の間は学識委員や区職員が進行役を担当するので、その様子を観察して進め方を確認して下さい。いずれは皆さんに担当していただきたいと思います。

3、会議運営について

- : (前回と同様なので省略) 事務局案について了承。

4、自由な議論

- : では、時間になりましたので各班ごとに2分で発表をお願いします。

- : (8班) 多文化共生では、まずルールを守ることが大事で、外国人の方に説明する努力が大事だと言う結論になりました。違いをマイナスとして捉えるのではなく、プラスとして考え、個性として捉えること。女性問題もあがりました。また、解決策としてスポーツを通して交流するのが大切だと思います。

自治制度は、合意の仕組みを確認するのが大事です。町内会制度について見直す必要があると思います。地域安全は、新しく入って来た住民の方とコミュニケーションを取るのが必要です。問題は、危険情報が周知されていないことで、オーバーステイなどに対して取締まりを変えるべきだと思います。協働・参画は、民間へのアウトソーシングが必要です。企業と官民の関係も、地域への関係といった何処に対しても言えることだと思います。コミュニティは、学校の繋がりを強化するべきです。情報が伝わっていないのではないか、退職者の方も協力してコミュニケーションが取れるようにすればよいのではないか。

- : (9班) 多文化共生は、「場」、「人」、「精神的」なコラボレーションが必要です。協働・参画は、今までは産官民の連携といっても、役所が一方的な感じですよ

めてしまう感覚があるので、官から民間に委託出来るようにできるようにすべきと思います。また、この区民会議がその見本になればいいと思います。あと、区職員は区民がなるべきだと思います。多文化共生は、この言葉が役所言葉で、きれいごとの感じがするので変えて欲しいです。文化、歴史、生活様式の違いを考えるのが必要だと思います。自治制度は、1人1人が個人の問題だと捉えて理解するのが必要だと思います。地域安全は、今ある犯罪や地震への心配があります。解決策として人と人との安全を考えるのが必要だと思います。

- : ありがとうございます。最後に伊藤委員に総括をお願いします。
- ◎ : (伊藤) 自分と同じような人と話し合っても意味がありません。大切なのは、お互いにつつかり合って、変わっていくこと、認め合うことが必要だと思います。今後ともよろしくをお願いします。ありがとうございます。
- : ありがとうございます。次回は8月6日に新宿区の清掃事務所でやりたいと思います。今日のデータは8月初旬までに集計し、お送りしたいと思います。また、8月16日に早稲田大学で多文化共生についての「まちづくり学」が開催されますのでぜひご参加ください。

<決定事項>

- ・ 今後、分科会は事務局案を中心に運営する。

<次回日程>

- ・ 8月6日(土) 13~15時 新宿清掃事務所 会議室
- ・ フォロー会議は、8月10日(水) 19~21時 区役所第1分庁舎7階 職員研修室の予定。(今後、第1土曜日の会議に参加できない方の人数など別途確認します。)